

【日本光電の魅力】 エレクトロニクスで 病魔に挑戦

執筆責任 人事部採用教育チーム

会社概要：

呼称：日本光電（NIHON KOHDEN）

代表者：代表取締役社長執行役員 荻野 博一

設立：1951 年 8 月 7 日

資本金：75 億 4 千 4 百万円（2025 年 3 月 31 日現在）

売上高：1,719 億円（連結売上高 2,254 億円）（2025 年 3 月期）

事業内容：医療電子機器の開発・製造・販売

従業員数：3,893 名（グループ 37 社 6,114 名）
（2025 年 3 月 31 日現在）

株式：東証プライム市場上場 呼称「日本光電」

EWE 関係技術者の活躍の場：

日本光電では現在、技術・営業・サービスエンジニア・コーポレートの 4 職種において採用募集を予定しております。今回はその中から、技術職について詳しくご紹介いたします。

技術職としてご入社いただいた場合、配属先は主に以下のいずれかとなります。

・技術開発本部：日本光電の製品競争力を支える中核部門として、医療現場のニーズに応える技術開発を推進しています。基盤技術の強化に加え、環境配慮設計や標準化、品質向上にも取り組み、製品の開発から市場投入までを加速させる体制を整えています。「医療×技術」で社会に貢献した

い方にとって、幅広い専門領域で挑戦できるフィールドです。

・荻野記念研究所：日本光電グループの未来を創る研究開発拠点です。医療課題の発見からソリューションの創出、臨床有用性の検証までを一貫して担い、AI 技術やバイオテクノロジーを活用した先端研究を推進しています。医療の可能性を広げる挑戦が日々行われています。

・脳神経事業統括部：脳神経に関連する製品およびサービスの開発を行う部門です。当該事業領域における新たな価値創造と、グローバルな成長と発展を目指します。

配属は、皆様の希望・適性に加え、会社の増員計画や欠員状況などを総合的に判断して決定されます。

また、技術職として入社された方には、学部・学科・専攻を問わず約 1 年間の研修プログラムをご用意しています。約 2 ヶ月間の新入社員研修を皮切りに、営業・サービス部門での実務体験、工場研修、技術専門研修などを通じて、会社全体の業務理解を深めた上で配属となります。詳細については、ぜひ先輩社員にもお気軽にご質問ください！

採用情報および連絡先

人材開発本部 人事部 採用教育チーム

担当：杉原 日菜子

E-mail: nkpersonnel@db.nkc.co.jp

TEL: 03-5996-8008 FAX: 03-5996-8084

URL: <https://www.nihonkohden.co.jp/recruit/newgraduate/>

【日本光電の魅力】 日本光電の強み

執筆責任：人事部採用教育チーム

1. 多くの No1・Only1 の製品

AED や除細動器、生体情報モニタ、脳波計、臨床用ポリグラフ、人工呼吸器など、当社の製品は国内トップシェアを誇ります。さらに、国内唯一の **Made in Japan** 製品も多数展開しており、品質と信頼性の面で高い評価を得ています。

No.1 シェアや唯一の国産製品であることで、より多くのお客様にご利用いただける機会が広がり、現場のニーズが反映されることで、さらなる品質向上にもつながっています。

BtoB 企業のため、一般の方々には馴染みが薄いかもかもしれませんが、日本光電は医療業界において確かなブランド力を持ち、医療機器市場に大きな影響を与えることができる企業です。

2. 医療の入口から出口までをトータルサポート

救急・検査・手術・リハビリ・在宅といった、医療のあらゆる場面で当社の製品が活用されています。医療の入口から出口までをトータルで支えることで、社会への貢献とともに、大きな責任とやりがいを感じながら働くことができます。

また、電子機器だけでなく、患者様の情報を一元管理できるシステム製品も展開しており、病院の運用効率化や経営改善にも寄与しています。

3. 高度な医療分野への貢献

創業から 70 年以上、医療機器専門メーカーとして培ってきた技術力と専門性により、手術室や

集中治療室など、命に直結する高度医療の現場で活躍する製品を多数開発しています。

営業・コンサルティング・アフターフォローに至るまで、医療現場の課題を的確に捉え、解決へ導くノウハウが蓄積されていることも、当社の大きな強みです。

近年、他業界からの医療機器市場への参入が進んでいますが、こうした高度医療領域に対応できるメーカーは限られており、日本光電の技術力と信頼性が際立っています。

4. 独自技術で世界の医療課題に挑戦

1974 年、日本光電の青柳卓雄博士が世界で初めて発明したパルスオキシメータ（SpO₂）は、コロナ禍を機に再び注目されました。

非侵襲で酸素飽和度を測定できるこの技術は、医療現場や在宅療養で広く活用され、今では日常的な健康管理にも役立っています。

現在も当社では、パルスオキシメータの原理を応用した新たな技術開発に取り組み、個別化医療の実現に挑戦し続けています。

青柳博士とパルスオキシメータに関する詳細は、当社 HP にてご紹介していますので、ぜひご覧ください！

(<https://www.nihonkohden.co.jp/information/aoyagi.html>)

